

発行者：秦野市議会議員

やひろ伸二



# 議会だより

連絡先：

〒259-1392 秦野市堀山下1番地

TEL. 0463-88-2777 (後援会事務所)

ホームページ：https://www.shinjiyahiro.com

## 令和4年6月秦野市議会第2回定例月会議報告



令和4年6月秦野市議会第2回定例月会議が、6月2日～6月21日の日程で開催され、令和4年度予算案を含む市長提出議案4件、報告9件、諮問2件、陳情4件、議提議案3件を審議・議決しました。主な内容は以下の通りです。

### 1. 令和4年度一般会計補正予算

令和4年度一般会計補正予算「新型コロナウイルス感染症対策」総額8億2,591万4千円が提案され、賛成全員で可決しました。

この補正予算の内容は、下記表の通り4回目のワクチン接種の費用、生活困窮世帯への給付金であることに加え、原資は全て国庫支出金(国費)であることなどから給付が滞ることのないよう進めるように求めました。

#### <新型コロナウイルス感染症対策に係る補正予算の概要>

(1) 健康と医療を守る施策	
事業名	予算額
新型コロナウイルスワクチン接種事業費(4回目ワクチン接種)	5億8,880万8千円
(2) 健康と医療を守る施策	
事業名	予算額
生活困窮者自立支援金給付事業	2,805万4千円
福祉臨時特別支援事業費	1,574万1千円
子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費	1億9,331万1千円

### 2. 消防団ポンプ車2台を更新

消防団に配備されている小型動力ポンプ積載車2台の老朽化に伴い、更新のため新規車両2台を購入する提案がなされ、賛成全員で可決しました。

なお、落札した事業者等は下記となります。



#### <ポンプ付救助工作車の詳細>

金額	25,300,000円(税込)
契約相手	米山商事株式会社
納入期限	令和4年1月26日
車両概要	寸法：全長4.9m/全幅1.7m/全高2.36m 排気量：1,998cc 燃料：ガソリン 変速装置：オートマチック 乗車定員：6名 駆動方式：二輪駆動 主な装備：エンジンカッター、チェーンソー、投光器一式

### 3. 陳情4件を審議

今定例月会議において市民などから4件の陳情を頂戴し、それぞれ審議しました。

秦野市議会では、市民などから提出された陳情については、郵送やFAX以外は余程の理由がない限り、議会運営委員会で付託し審議する常任委員会を決定します。なお、項目と審査結果は下記となります。

#### <陳情とその結果>

件名	結果	備考
神奈川県最低賃金額審議に関する陳情	審査未了	—
シルバー人材センターへの支援について国に意見書提出を求める陳情	採択	国へ意見書を提出(議提議案)
加齢性難聴者の補聴器購入に公的助成を市へ求める陳情書	趣旨了承	—
子どもたちに豊かな学びを保障するために、教職員定数改善と教育予算の増額、義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充を求める陳情	採択	国へ意見書を提出(議提議案)

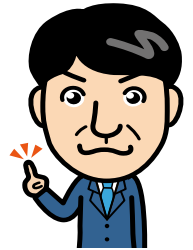
### 4. 戸川区画整理事業に対し議会で推進を決議

本市発展の絶好の機会を逃すことのないよう、戸川土地区画整理準備組合への支援、ならびに本市が実施する矢坪沢の水路整備及び都市計画道路の一刻も早い完成に向けて、市民へのより一層の丁寧な説明を行い、戸川土地区画整理事業を強力に推進することを強く求めるため、議員18人による「戸川土地区画整理事業を強力に推進することを求める決議について」議提議案が出され、賛成多数で可決しました。県による土地の用途変更(線引き)が近づいており、来年には土地区画整理組合が設立できないと、次の線引きが5～6年後となることから、私は市の支援に対し、より一層の丁寧な説明を行うよう求めるため、提案者の一員として賛成しました。



戸川地区の畑

# 令和4年6月第2回定例会議 一般質問内容 やひろ伸二



2025 年末を目標に休日の部活動を地域のスポーツクラブや民間に委ねる「地域移行」が文科省の有識者で示されたことから「休日における中学校部活動の地域移行」について質問しました。また、自動車部品の製造を行う企業が多い本市として、今後、どのような工業振興政策を行うのか「地域ビジネスの発展・創出」について質問をしました。主要内容は下記の通りです。

## 1. 休日における中学校部活動の地域移行

### 質問

- (1) 教職員の多忙化解消の目的で進められた休日における中学校活動の地域移行は、5月31日スポーツ庁において文部科学省の有識者による「公立中学校の運動部活動改革を検討する会議」が開催され、2023年度から2025年度を改革集中期間と定められた。本市は昨年4月より、部活動の休日クラブ化の推進を国・県と連携し、いち早く実施してきた。本市で試行(研究)された中学校は何校あり、どの種目が施行されたのか？
- (2) 1年間の試行で、目的である教職員の多忙化は、軽減することが確認できたのか？
- (3) 1年間の試行で見えてきた課題は何か？
- (4) 来年度から2025年度までの集中検討期間を、どのような形で進めるのか？

### 回答

- (1) 昨年度は、東中学校のサッカー一部、南中学校の吹奏楽部を拠点校とし市内の陸上競技部、市内の剣道部については合同部活動の枠組みを活用した。
- (2) 本研究は国の委託を受け成果指標として、顧問教職員の休日勤務日数が25%減を目標とされていた。本市の拠点校では約75%の削減が達成でき、合同部活動においても顧問35名のうち希望する顧問10名のみが地域部活動の指導者登録を行い、休日の部活動に参加したことから教職員の多忙化は軽減されたと考えている。
- (3) ①指導者の人材の確保、②指導者への謝金等にかかる財源確保、③地域に移行することへの保護者の理解、④部活動の教育的な意義を大切にす、といった4点の課題があると分析している。
- (4) 本市は、いち早く取組んだことで浮き彫りとなった課題を市内全域に共有し、地域や種目毎で実施方法や運営団体をハイブリットに展開することで、生徒たちにとって一番良い「秦野スタイル」を段階的に確立し移行を進めていく。



### ◆◆ 意見・要望 ◆◆

「人材バンク」のようなものを仮設置的に管理し、一定量の指導者をサーチしておくことを要望する。

## 2. 地域ビジネスの発展・創出

### 質問

- (1) ガソリン車は10万点で、EVカーは2万点となり、産業が5分の1に縮小し、雇用も30万人が喪失するのではないかとされている中、本市の産業における現状の課題をどのように捉えているのか？
- (2) 「秦野市工業振興基本計画」の新たな取組みとターゲットとなる事業者は？
- (3) ベンチャー企業に対する支援策の再検討について考えはあるのか？

### 回答

- (1) 本市で自動車関連部品の製造に分類される企業は37社で、EV化による影響は、個々の事業者への調査が必要だが、製品を製造するための材料を扱う企業を含めると相当の影響があると考えている。
- (2) 新規事業として、動画や画像を使った視覚的に企業の強みを発信する特設サイトを開設することが市内企業の個々の技術や製品に対する認知度向上、販路拡大、新たな事業展開や協働の関係づくりに繋がるものと考えている。この他に、一社単独では困難な新製品・新技術の開発に繋がるよう産学公連携推進事業として、新製品・新技術の研究開発により企業体質の強化を促進するため、商工会議所工業部会、東海大学、市で連携し、企業と大学の人的・技術的交流を進めている。
- (3) 本市でも既に、様々な分野で近隣市町や大学、民間企業及び関係機関との連携事業に取り組んでいる。今後も、国・県の動向を注視し地元の企業をはじめ、ベンチャー企業のニーズに応えられるよう、地域の産業振興や地域活性化等につながるよう努めていく。



### ◆◆ 意見・要望 ◆◆

倉敷市では高梁川流域10市町でのクロッシング事業として、産業振興を目的とする「高梁川流域オープン・イノベーションフォーラム」を開催し、高い技術を持っている事業者が、実現したい製品やサービスのために、事業者相互で相談したりする場を提供する新たな取組みが始まっている。本市でも参考として実施して欲しい。